

島根 更生保護

NO.180

(平成26年1月1日発行)
島根県保護司会連合会

〈島根更生保護データ〉

保護司総数	494人
保護観察事件	191件
生活環境の調整事件	255件

(25.12.1現在)



八雲山(雲南地区保護司松田勉氏提供)



新春を迎えて

島根県保護司会連合会会長
坂本圭祥

輝かしい平成26年の新春を迎え、更生保護関係者各位の御多祥を心からお慶び申し上げますと共に、平素は本会の活動について格別なご理解のもと、献身的なご盡力を賜り衷心より感謝申し上げます。

かつて山陰中央新報の「明窓」の記事で、紀州藩に代々伝えられた「父母状」と言うものがあるとされています。初代藩主の徳川頼宣公が『人間の心得』として作られ、領民の家の壁に張らせたとありました。

内容は＝親を大切にする・法を守る・仕事に精を出す・正直をもとゝする＝などとされ、最後に「誰も知っていることだが、常々下に教え聞せるべきもの也」と。この背景には、領内で律儀に暮らしていた若者が、大酒飲みの父親が母親に暴力(DV)を振ったとして父親を殺害した。取り調べに対し「他人の親を殺したのなら悪いが、自分の親を殺してなぜ悪いか」と主張

したと言う。これに驚いた頼宣公が「私の政治(まつりごと)が悪いのでこうした人間が出た」と反省し、『父母状』を作ったとされる。

頼宣公はその若者の処に「李 梅溪」を派遣し、孔子が説いた孝行の道「孝教」を毎日のように教えた。その3年後、若者はやっと「悪かった」と罪を認めたという。

私達は更生保護事業に取り組んでいますが、この私達の社会、頼宣公の「父母状」の如き教訓を子々孫々に継承していくことも、犯罪や非行に陥った人達の改善更生の大きな役割に値するのではと思います。

刑法犯の認知件数は年々減少し、国民の治安意識も好転しているように思われますが、重大事犯を含む保護観察対象者による再犯は依然として高い水準にあります。

再犯防止対策の一環として、この程「刑の一部の執行猶予制度」「社会貢献活動」の法案が国会を通過致しました。保護司の職務も更に多様化して参りますが、どうぞ更なるご理解とご盡力を賜りますようお願い致します。更生保護関係機関、団体各位のご健勝とご多幸をお祈り致します。

新年の ご挨拶



更生保護法人島根保護観察協会

理事長 古瀬 誠



明けましておめでとうございます。

本年も「犯罪や非行のない安全・安心な明るい島根」の実現に向け、尽くして参る所存でございます。平素のご理解とご協力に心よりお礼申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様方にとりまして、幸多い年となりますようお祈り申し上げます。

島根県更生保護女性連盟

会長 鐘 築 章 恵



新年明けましておめでとうございます。

新しい年が更生保護関係者の皆様に幸多い年でありますようお祈り申し上げます。

本年も更生保護女性会員相互の連携を密にし、地域の課題に即した活動を展開して参りたいと存じます。皆様方のご支援、ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

島根県協力事業主会

会長 坂 根 勝



明けましておめでとうございます。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

引き続き、更生保護関係機関・団体との連絡協力を推進致します。NPO法人「島根県就労支援事業者機構」との連携についても、より充実を図るべく模索して参りますので、どうかご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

松江保護観察所

所長 中 村 明 英



新年明けましておめでとうございます。

県下の更生保護関係者各位におかれましては、御家族お揃いで健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平素、更生保護に格別な御支援と御協力を賜っておりますことに対し、心から厚く御礼申し上げますとともに、本年が皆様方にとりまして益々幸多い年となりますようお祈り申し上げます。

更生保護法人 島根更生保護会

(愛称：しらふじ)

理事長 吉 長 義 親



謹年おめでとうございます。皆様
の本年のご多幸を祈り上げます。

昨年はお蔭様で、念願の施設全面改築が出来ました。ご支援に対し改めて心からお礼申し上げます。

ご期待に添える充実した運営をお誓いし、更なるご支援をお願い申し上げます。

島根県BBS連盟

会長 本 宮 和 也



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年はBBS会の運営と発展に多大なご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

本年も更生保護事業関係団体の皆様のご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

NPO法人 島根県就労支援事業者機構

会長 古瀬 誠



新年明けましておめでとうございます。

新しい年をご家族の皆様とお健やかに迎えられましたことに心よりお慶びを申し上げます。

当機構は、犯罪や非行をした人たちを雇用して頂いた事業者に対し奨励金を支給する等して、就労支援の促進を図っている組織です。

今後とも皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成25年度 島根県更生保護事業関係者顕彰式典

平成25年11月20日（水）午後1時20分から松江市総合福祉センターにおいて多数の更生保護関係者の方が参集し、今年度の顕彰式典が行われました。

当日は蛸原正敏中国地方更生保護委員会委員長、山嵯和信松江地方・家庭裁判所長、辻裕教松江地方検察庁検事正、平岡昇島根県健康福祉部青少年家庭課長、中嶋義朗松江刑務所庶務課長、浦田洋松江少年鑑別所長、櫻木明彦島根あさひ社会復帰促進センター更生支援企画官、坂根勝島根県協力事業主会長、黒崎真也島根県地域生活定着支援センター部長代理のご臨席をいただき、島根県保護司会連合会神一紀道副会長の開会の辞により島根県保護司会連合会坂本圭祥会長の式辞、松江保護観察所中村明英所長の挨拶に続いて、永年更生保護事業に功績のあった175名の方に表彰状が、122名・15団体の方に感謝状が贈呈されました。

表彰が終わってから、受彰者を代表して増澤寛順保護司（大田地区）の謝辞があり、来賓として御来場戴いた蛸原委員長、山嵯裁判所長、辻検事正、平岡課長（島根県知事祝辞の代読）の祝辞をいただき、来賓紹介・祝電披露の後、島根県更生保護会吉長義親理事長の万歳三唱により式典を終了しました。



式辞（坂本連合会会長）



表彰状授与



来賓祝辞（蛸原中国委員長）

平成25年度 各種表彰受彰者（敬称略）

法務大臣表彰

〔保護司〕

松 本 信 雄（松江）
石 川 正 伸（松江）
仙 田 芳 弘（安来）
落 合 慧（雲南）
岡 田 泰 明（出雲）
増 澤 寛 順（大田）
菅 本 道 彦（大田）
沖 野 邦 男（浜田）

西 田 良 子（浜田）
山 田 實（益田）
前 田 士（益田）

法務大臣感謝状

〔更生保護女性会員〕
澄 田 千 歳（大社）
永 見 正 子（江津）
藤 井 富士子（鹿足）

全国保護司連盟理事長表彰

〔保護司〕
兼 折 隆（松江）
岩 田 拓 郎（安来）

驗 馬 重 弘（雲南）
西 古 孝 道（雲南）
久 我 卓 央（雲南）
土 屋 七 生（大田）
水 口 清 子（浜田）
花 田 和 代（浜田）
中 島 修 司（益田）
土 井 幸 子（隠岐）

〔内助功労者〕
長 妻 美恵子（安来）
小 川 美砂子（浜田）

日本更生保護女性連盟会長表彰 〔更生保護女性会員〕

石 橋 享 子（鹿島）
広 瀬 美喜子（安来）
山 中 洋 美（飯石）
恒 松 和 子（大田）
田 中 美 子（江津）
田 中 ユリ子（益田）



更生保護功労による
叙勲・褒章（敬称略）

瑞宝双光章 柳 樂 泰 洋（出雲）
藍綬褒章 恩 田 祥 雄（松江）
藍綬褒章 村 社 征 利（安来）



叙勲の栄に浴して

出雲地区 柳 樂 泰 洋

この度の秋の叙勲に際し思いがけない栄に浴し、戸惑いと感謝の念でいっぱいであります。法務省での伝達式後、皇居での天皇陛下拝謁に臨み直々に労いの御言葉を賜り感激の極みでありました。



これからも 「明るいまちづくりを」

松江地区 恩 田 祥 雄

犯罪や非行をした人の更生を支援する、保護司を務めて21年、特に功績があったとは思いません。罪を犯した人たちは他人には分からない人生の歩みがあり、就労を支援する活動は困難ですが、社会で働き生活環境が変われば更生



藍綬褒章を拝受して

安来地区 村 社 征 利

私こと、平成25年秋の褒章に際し藍綬褒章拝受の栄に浴しました。昭和61年12月に保護司を拝命し、ただ年数を重ねただけのこと、身に余る光栄でございました。

去る11月13日法務省において章記・褒章の伝達を受け、引き続き皇居に参内し豊明殿において、

JA在職中の昭和57年に地区から保護司候補の推薦を受け迷いの末に、組合長に伺いを立てました。社会貢献はJAも同じである。ぜひ頑張りたいと背中を押して下さいました。爾来、幾多の壁におつかる度に、保護観察所をはじめ多くの方のご指導ご支援により前に進むことができました。この度の受章は、ひとえに皆様方のお蔭と心から感謝申し上げます。

の可能性は高まると思い、相手の立場に立って向き合い接してきました。更生したと思った人が、再犯に走る苦い体験も何度かありました。非行した少年が保護観察が終り、数年後に結婚し奥さんと子供を連れて来訪した時は「本物の笑顔」でした。それらのことを思い出し原動力にして、これからも支援活動を行い安全で安心の「明るいまちづくり」に努めます。

天皇陛下に拝謁の栄誉とともにお言葉を賜り、感激の極みでございました。

これもひとえに関係者の皆様方のご支援の賜物と、紙面をお借りし御礼と感謝申し上げます。

益々複雑な社会情勢の中、私も保護司に課せられた、使命の重さを更に自覚させられた貴重な機会を頂いたことに、重ねて感謝とお礼を申し上げます。

愛の図書贈呈式

平成25年12月5日（木）松江保護観察所において、島根県更生保護女性連盟による第53回「愛の図書贈呈式」が行われました。皇后宮御歌斉唱、要綱唱和の後、鐘築章恵島根県更生保護女性連盟会長、中村明英松江保護観察所長の挨拶があり、鐘築会長から更生に役立ててもらうため、「愛の図書」の募金活動によるご芳志が下記の11施設へ贈呈されました。書籍に親しみ、読書を通して豊かな心を育んでもらうためです。贈呈式後、各施設等の代表の方から利用状況等についてそれぞれ説明があり、十分に活用されている様子がよく分かりました。



松江刑務所、島根あさひ社会復帰促進センター、美保学園、松江少年鑑別所、わかたけ学園、中央児童相談所、出雲児童相談所、浜田児童相談所、益田児童相談所、島根更生保護会、島根県女性相談センター

隣県との交流会

松江市八東地区保護司会

門 脇 正 人

松江市八東地区保護司会、同美保関地区保護司会は、鳥取県境港市境港地区保護司会との間で、「境港地区・八東地区（美保関町、八東町）保護司会合同協議会」と題して、昭和58年9月13日の第1回から現在に至るまで、計17回にわたって交流打合わせ会を開催している。当初は年1回の開催としていたが、第5回以降は隔年の開催として主催は持ちまわり、会場費は開催地区の負担、経費は出席者の人員割りで、各地区の会計負担とした。

出席者は計20名前後であるが、保護観察所係官の出席は主催地区が要請し、議題は、それぞれが持ち寄り、通例は、両地区会長挨拶、名簿交換、自己紹介、保護観察の現況報告（犯罪傾向の特色）、意見交換などで昼食を挟んで行い、司会は当番地区の担当が行う。

視点

焦点

八東地区・美保関地区と境港市は、それぞれ江島大橋、境水道大橋を挟んで、隣接している環境にあり、三者は、行政・経済・生活環境も相互

に補完しており、言わば共存の関係でもある。

従って、保護観察の対象者の行動範囲もそれぞれの地区に及んでいる可能性が大であり、三者の情報交換も極めて重要不可欠であると言える。

こうした観点に立って、30年前から本格的な交流が始まったものであり、この合同協議会は「継続は力なり」を実践しているものとして、その効果とともに特筆すべき事象であり、今後も継続発展するものとして期待される。

情報が同一県内にとどまっているだけでは、情報の効果は半減するが、県境を越えた交流は、情報交換、相互理解などの点で極めて重要であり、県境にある地域は、本件を教訓として一考されても良いのではないだろうか。

地区だより

邑智地区は、非行や犯罪の少ない穏やかな地区のせいかな更生保護という言葉が分かりにくく、のんびりしています。こんな中、前邑智地区更女片山会長さんの熱心な呼びかけで少しずつ会員も増え始めています。活動として何をするのが適切なかが分からないまま、各地区で見合った活動を見つけ出す努力をしているというのが現状です。私達更生保護女性会が「社会を明るくする運動の一環としてできる更生保護の活動は？」と考える時、島根県更生保護女性連盟の重点目標に“犯罪や非行に陥らないように地域でささえよう”と挙げてあります。この中でも育ち盛りの子供が大切であると考え、今年は積み立てた募金の浄財で保育園（所）と小中学校計32ヶ所に愛の図書を贈り大変喜んで頂きました。小地区の活動では、独居の方への声掛けを行いました。また、島根更生保護会へ必要な物を

身近にある支援を考える

邑智地区更生保護女性会

会長 野 田 律 子

お尋ねし衣類関係や野菜などの寄贈を実施しました。さらに邑智地区では、幼児の子育て支援に目を向け、子供に悩んでおられるお母さん達のお手伝いになればと保育園の先生と連携のもと、お茶を飲みながら子育ての悩みについて話す場を設けています。私達子育て体験者の失敗談や良かった事の実例は参考になると喜んで頂いています。
「1つ……^{ひと}9つと数えてツの字のつく年齢の間にきちんとした子育てを」を目標に。身近に転がっている悩みはいっぱいです。



第63回 “社会を明るくする運動” 作文コンテスト

日本更生保護女性連盟会長賞(小学生の部 優秀賞)受賞作品



明るい未来にするために

出雲市立西田小学校 6年

神田 希菜

ある日、お母さんがある本を読んでいて、私は「何を読んでいるの?」と聞くと、「16年前に起きた、神戸連続児童殺傷事件の犯人の両親が書かれた本だよ」と言いました。この事件についてのくわしい内容は、とても残酷すぎて私には、話してもらえませんでした。でも、犯人の両親や兄弟について話してくれました。この事件が起きてから、家族と一緒に暮らすこともできず、人目をさけて暮らさなければならなかったそうです。このことを聞き、私はなんて悲しいんだろうと思いました。しかし、こんな残酷な事件をおかした子どもでも、両親にとっては大切な子どもだと書いてあったと聞きました。そしてお母さんも同じ思いだったそうです。私は、それを聞いて胸がいっぱいになりました。

最近もこのような悲しい残酷な事件が毎日ニュースで流れています。以前は人事のようにあまり感心がなかったけれど、この本の話を知ってから、今ごろ家族がどんな思いなんだろうと考えるようになりました。この罪をおかした人も、罪をつぐなえば新しい生活をおくることができると思います。私達は、そんな人を差別なく、迎えることが大切だと思います。それと、罪をおかした人の家族も笑顔で暮らせるようになったらいいと思います。

しかし、どんなに月日がたっても、亡くなられた人達の命がもどることはありません。どんなに罪をつぐなっても、許されることはないと思います。決しておかした罪を忘れることなく、生きていってほしいと思います。

これから私達が、大人になったときには、このような残酷で悲しい事件など起きないように今できる事は、一人で悩まず家族や友達に相談することだと思います。そして、地域の人達とも仲良くすることも大事だと思います。今、私達が安心して学校へ行けるのも、地域の方々がいつも、やさしく見守っていてくださるからだだと思います。

そして、みんなが協力し合って、犯罪の無い住みよい社会になるように、一人一人が勇気を持つことも必要ではないでしょうか。勇気を持って生活する事によって、今まで見て見ふりをしていた事にも向き合っていけるとと思います。私も悪い事をした人にはきちんと注意できる人になりたいです。

今の日本は犯罪も増えて少し暗くなってきていると思うけど、世界から見れば、まだまだ住みよい国だと思います。この国がもっと安心して暮らせるように、笑顔あふれる明るい未来になるように、私達が頑張っていきたいです。



変えてやろうという決意

出雲市立多伎中学校 3年

森 脇 達 希

最近私は、広島県呉市で起きた死体遺棄事件のニュースを見ました。SNS内でのトラブルが原因で、事件に発展したと報道されていました。逮捕された少女は16歳。私と変わらない年齢です。その人は、自分の行動によって、相手やその家族、それだけではなく自分の家族までもがどんな気持ちになるのか考えたのでしょうか。事件の真相は分かりませんが、ニュースによると、加害者と被害者の間に、意見の相違があったようです。人間同士なら意見の食い違いは当たり前のことだと思います。しかし、それで相手の命を奪うとは、あまりに飛躍していると思います。私はこのような出来事がおこってしまうことに、悲しみと不安を感じました。そして、この社会を変えてやろうと強く思いました。

私は、小学校まで松江市に住んでいました。最初は「自分はよそ者」という感覚がありました。しかし、同級生や、地域の方は優しく接してくれて、馴染むことができました。

一方で、戸惑うことも出てきました。それは、この町の人の過去の話、私にされることでした。もちろんいい話を聞くこともありました。でも、悪い噂話を聞くことも多かったです。そして、その噂話の最後には、「○○らしい」という言葉がつきます。不確かな情報が、更に形を変え、人々に広まっていく怖さを感じました。更に悪いことには、悪い噂を聞いた後は、なんとなくその噂話の対象になった人を悪く思うようになっていました。このように噂話や先入観で、何も悪くない人が、いじめの対象になってしまうことがあるのではないのでしょうか。自分もいつの間にか噂話に違和感を覚えなくなっていきました。そんな私を救ってくれたのは、友人とトラブルがあった時の、先生のお話や道徳の授業などの積み重ねでした。私は、自分自身が噂話からの先入観で人をみてしまったことを反省し、徐々にこのようなことがあってはならないと思うようになりました。そして、まずはこの学校から変えてやろうと思いました。

そこで、私は「一人一人がヒーローになる学校」というモットーを掲げ、生徒会長に立候補し、当選することができました。まず私と生徒会のメンバーで協力して行ったことは、人権集会です。この集会は、生徒会が主催となり、多伎中学校と近隣の小学校とが一緒になって人権意識を高めていこうとする会です。私は、この人権集会で、

一人一人、真剣に話し合い、お互いを尊重し合う仲間となって欲しいという願いをもって企画しました。

人権集会の内容をどのようにするのか話し合う時、まずは、多伎中学校や近隣の小学校内でのどのような点が一番問題なのか考え、児童生徒にアンケートをとりました。そこで私が出した結論は「生徒一人一人の人権意識の向上の必要性」です。私は、生徒一人一人が、善悪の正しい判断ができるようになれば、自然と先ほど述べたような、根拠のない噂話もなくなっていくのではないだろうかと考えました。そのためには生徒一人一人の人権意識の向上が不可欠だろうと思ったのです。

しかし、そのためには具体的に何をすればいいのか悩んで時間だけが過ぎていき、焦燥感にかられる毎日でした。そんな中、先生方や生徒会の仲間と相談して、「多伎町内小中学校人権宣言」の作成をしようという案ができました。

人権集会当日、人権宣言の案がどんな内容になるのか気が気ではありませんでした。しかし、その心配は杞憂に終わり、蓋を開けてみると、みんな真剣に考え、積極的に意見を言い合っていて、とても嬉しかったです。後日、みんなから出た様々な意見を生徒会でまとめて、「人権宣言」のかたちにしました。その際気をつけたのは、小学生にも分かりやすい文章で表現することです。完成した人権宣言は、みんなが納得いくものになったと思います。また、一人一人がよりよい人間関係を築くにはどうしたらいいのか意見を出し合ったことは、意義があったことだと思います。しかし、それだけで満足してはいけません。今後は、生徒会が中心となって呼びかけ、みんなで人権宣言を実行していこうと思います。

確かに、この集会で行ったことだけでは、すぐに人権意識が高まるわけではないでしょう。しかし、こうして中学生であっても、何か行動をおこしていくことが大切ではないのでしょうか。何もしなければ、何も変わらない。何かをし続けていけば、少しずつ変わっていく。みんなが変わっていけば、世の中の痛ましい事件もなくなっていくと思います。私は今後、自分も含め、人々の人権意識が高くなるように、周囲に呼びかけていきたいです。そして、この小さな力が、やがて大きな力となり、この社会に新しい風として吹き込まれていくことを願っています。

第63回“社会を明るくする運動”作文コンテスト入賞者

応募総数1,741点(小学校604点・中学校1,137点)

【小学生の部】

最優秀賞

- ・第63回“社会を明るくする運動”
島根県推進委員会委員長賞(1位)
明るい未来にするために
出雲市立西田小学校6年 神田 希菜

優秀賞

- ・島根県保護司会連合会長賞(2位)
「やさしい言葉」の強い力
安来市立島田小学校6年 山崎 光翔
- ・更生保護法人島根保護観察協会
理事長賞(3位)
あいさつから始めよう
浜田市立美川小学校6年 青木明日香
- ・島根県更生保護女性連盟会長賞
支え合うから人なんだ
松江市立出雲郷小学校6年 伊藤 悠希
- 大事な言葉
安来市立社日小学校6年 西原 勇翔

- ・島根県BBS連盟会長賞

よりよい社会

- 出雲市立佐香小学校6年 青山 海優
- 社会をあいさつで明るく
江津市立高角小学校6年 大瀨 楓太
- ・山陰中央新報社賞
志学の人はやさしいよ
大田市立志学小学校5年 井上 彩花
- みんなありがとう
浜田市立長浜小学校5年 岩本 優樹

【中学生の部】

最優秀賞

- ・第63回“社会を明るくする運動”
島根県推進委員会委員長賞(1位)
変えてやろうという決意
出雲市立多伎中学校3年 森脇 達希
- 優秀賞
・島根県保護司会連合会長賞(2位)
家族のあたたかさ
出雲市立浜山中学校3年 大野 詩織

- ・更生保護法人島根保護観察協会
理事長賞(3位)

命の重さ

- 出雲市立多伎中学校3年 田中 優希
- ・島根県更生保護女性連盟会長賞
地域の人とふれあいを
松江市立第二中学校2年 三代 芽依
- 勇気の輪
隠岐の島町立五箇中学校2年 濱垣 連
- ・島根県BBS連盟会長賞
「社会を明るくする友達の存在」
大田市立第一中学校1年 幸田 有生
- 大切ないのち
江津市立青陵中学校1年 石原 加菜
- ・山陰中央新報社賞
家族とのコミュニケーション
江津市立青陵中学校2年 安井 綾音
- 我が家から地域への発信
吉賀町立蔵木中学校2年 大庭 智里

※小学生の部、中学生の部それぞれ1位から3位までの作品計6点を、第63回“社会を明るくする運動”中央推進委員会に推薦する。

保護司の異動

【退任保護司】

14名(平成25年11月30日付)

中 村 晴 洋(松江)	田 口 君 枝(安来)
中 林 正(雲南)	名 原 光 義(雲南)
新 田 暁 修(雲南)	田 坂 將(出雲)
奈 島 芳 江(出雲)	福 間 健 文(出雲)
岡 本 誠 史(浜田)	太 田 篤 子(浜田)
佐々木 善 友(浜田)	大 田 潔(益田)
中 島 英 明(益田)	濱 孝 裕(隠岐)

【新任保護司】

20名(平成25年12月1日付)

上 山 良 壽(松江)	内 田 富美男(松江)
林 美和子(松江)	松 本 裕 樹(松江)
矢 野 喜 郎(松江)	大 島 健 作(雲南)
岡 田 礼 子(雲南)	清 水 寛(雲南)
立 石 典 夫(雲南)	石 飛 博 雄(出雲)
太 田 祐 子(出雲)	神 門 保 雄(出雲)
中 尾 亮(出雲)	河 野 宜 子(浜田)
福 富 孝 男(浜田)	丸 山 義 尚(浜田)
佐々木 みゆき(益田)	寺 戸 啓 介(益田)
安 見 隆 義(益田)	領 家 貞 夫(益田)

敬
用

下記の方がご逝去されました。ご功績を偲び謹んで
哀悼の意を表します。

- 元保護司 中川 義正(益田)(平成25年10月3日死亡)
- 保護司 齊藤 正史(出雲)(平成25年10月12日死亡)
- 元保護司 坂根 和夫(大田)(平成25年10月24日死亡)
- 元保護司 大樹 文政(出雲)(平成25年11月12日死亡)
- 元保護司 藤原 敏徳(松江)(平成25年12月16日死亡)
- 保護司 井下 慈海(邑智)(平成25年12月16日死亡)

【表紙写真説明】

スサノオノミコトが大蛇を退治した後、宮作るべき地を求めて
須賀の地に到り、詔りたまはく、「吾、此の地に来て、我が御心
すがすがし」とこの土地を選び、稲田姫と結婚の契りを結び、宮
造りをしたと伝えられています。

その時の御歌「八雲立つ 出雲八重垣 妻隠に 八重垣作る
其の八重垣を」は最初の和歌と言われます。

八雲山には、夫婦岩があり須賀神社の本宮のあった場所です。
最近の古事記ブームで、県内外からこの場所を訪れる人が多く
なっています。

編集後記

昨年は、各地で台風・大雨・竜巻・落雷等により水害・土
砂崩れ・家屋破壊など甚大な自然災害に見舞われました。被
災に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

第63回“社会を明るくする運動”作文コンテストの応募者
数が1,741点と大幅に増加しました。特に中学校の応募者数
が3倍(1,137点)近くに増えています。更生保護について更
に若年層の関心が高まるのが大切だと思います。